

## 平成 24 年（2012 年）3 月期第 2 四半期決算概要

平成 23 年 11 月 1 日

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野 博明  
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治  
 : (TEL) (06) 7635-1636

### (1) 当第 2 四半期の連結経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）の当社経営環境は、東日本大震災および原発事故影響による国内需要減や恒常的な円高に加え、先進国経済の停滞に伴う期後半の液晶 TV 関連メーカーの生産調整等の影響を受け、予断を許さない厳しい状況が継続いたしました。その一方、主力の衣料分野や資材分野は、震災により寸断されたサプライチェーンが予想以上の速さで回復したこと、及び差別化素材の採用がさらに進展したこと等により、利益は順調に拡大いたしました。

この結果、売上高は 567 億 9 千 5 百万円（前年同期比 10 億 6 千 1 百万円、1.8%の減収）、営業利益は 17 億 5 千 2 百万円（同 2 億 4 千 5 百万円、16.3%の増益）、経常利益は 18 億 5 千 7 百万円（同 3 億 4 千 8 百万円、23.1%の増益）、四半期純利益は 11 億 6 百万円（同 2 億 1 千 4 百万円、24.0%の増益）となりました。

#### 【連結業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (平成23年4月～平成23年9月)		前第2四半期累計期間 (平成22年4月～平成22年9月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	56,795	-	57,856	-	▲1,061	▲1.8%
粗利益	4,283	7.5%	3,980	6.9%	+303	+7.6%
営業利益	1,752	3.1%	1,506	2.6%	+245	+16.3%
経常利益	1,857	3.3%	1,508	2.6%	+348	+23.1%
四半期純利益	1,106	1.9%	891	1.5%	+214	+24.0%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の 1 社であり、同社の連結累計期間は平成 23 年 1 月 1 日から同 6 月 30 日となっています。

#### 【単体業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (平成23年4月～平成23年9月)		前第2四半期累計期間 (平成22年4月～平成22年9月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	56,482	-	57,543	-	▲1,060	▲1.8%
粗利益	4,201	7.4%	3,919	6.8%	+282	+7.2%
営業利益	1,709	3.0%	1,479	2.6%	+230	+15.6%
経常利益	1,815	3.2%	1,490	2.6%	+325	+21.8%
四半期純利益	1,073	1.9%	877	1.5%	+196	+22.4%

以下「 」の中の名称は(株)クラレの商標です。

## (2) 営業の概況

### <繊維関連> (増収、増益)

売上高は221億円。前年同期比16億円(7.9%)の増収。

#### (衣料分野)

- スポーツ分野は、高機能素材の販売や縫製品のOEM販売が大きく拡大し、また学校体育衣料向けも受注が順調に拡大しました。
- ユニフォーム分野は、ワーキング向けが旺盛な受注により大きく伸長しました。また、サービス向けも有力アパレルでの新素材の採用が貢献し、販売が拡大しました。
- ブラックフォーマル分野は、新素材の投入効果から堅調な販売が継続しました。
- 輸出は全般に恒常的な円高に苦戦し、特に欧州向けは経済停滞の影響もあり生地販売が伸び悩みました。一方、中東向け販売は継続的な商品開発が寄与し数量面で拡大し、全体として前年同期並みとなりました。
- 新機能原糸「クラカーボ」や「ミントパール」は、輸出を中心とした顧客開拓が順調に進展しており、収益拡大に貢献しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

#### (資材分野)

- メディカル関連資材は好調な需要を背景に販売が拡大しました。一方、スポーツ靴用資材は顧客の在庫調整により伸び悩みました。
- 産業資材は、アジア市場の拡大に伴い、自動車用ゴム資材、高強力繊維「ベクトラン」、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンの販売が伸長しました。
- 人工皮革「クラリーノ」は、震災影響を受け靴用途等が苦戦しましたが、好調に推移したランドセル用途がそれをカバーしました。
- ワイピング用クロスをはじめとする不織布関連は、国内での競合が厳しい中、上海現地法人を核とする中国オペレーションによるビジネスが徐々に拡大しました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

### <樹脂・化学品・化成品関連> (減収、増益)

売上高は347億円。前年同期比27億円(7.2%)の減収。

- ポバールフィルムは、欧米景気の停滞を受けた海外の液晶TV関連メーカーにおける期後半の生産調整の影響を受けました。
- 「エバール」フィルムは、国内食品包装用途が好調に推移しました。また、冷蔵庫用断熱板用途も順調に拡大しました。
- 溶剤等化学品関連は、一部商材で震災後の工場停止の影響により出荷数量が減少しましたが、その他の商品が好調に推移し、全体として増収となりました。
- 耐熱性ポリアミド樹脂「ジェネスタ」は、震災後の工場停止の影響による出荷数量減や、海外の

液晶TV関連メーカーでの期後半の生産調整の影響を受け、減収となりました。

- エラストマー事業は、輸入品コンパウンドが復興需要に対応し販売を伸ばしましたが、原料ブタジエンの高騰影響を受けた熱可塑性エラストマー「セプトン」は、アジア向けを中心に苦戦しました。
- メタクリル樹脂関連は、液晶TV、PC販売の低迷により、アジア向け導光板用ペレットやシート販売が期後半に苦戦を強いられました。一方、競合の激しい中、看板・ディスプレイ向けシート用途は堅調に推移しました。
- 環境関連資材は、震災影響により精密ろ過用工業膜の販売が伸び悩みましたが、水浄化・精製用及び空気浄化用活性炭が好調に推移しました。

### (3) 年度連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

当社の販売状況は、アジア新興国を中心とした好調な需要を背景に堅調に拡大しておりますが、欧米経済の先行き悪化懸念、中国をはじめとする新興国経済の成長鈍化、恒常化した円高等、当社をとりまく経営環境は依然厳しく、不透明な状況にあります。

このような懸念材料がありますが、アジア市場での取組み強化、商材の高付加価値化への注力、効率経営の追求等の努力により、通期連結業績は前回4月の公表値に対しまして、売上高では若干の減収となりますものの、利益は据え置いております。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表 (対前期比)	1,200 (+4.2%)	35 (+5.9%)	35 (+5.0%)	20 (+3.6%)
今回公表 (対前期比)	1,160 (+0.7%)	35 (+5.9%)	35 (+5.0%)	20 (+3.6%)

<注記>本業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上